

第二次大井町子ども読書活動推進計画

～わくわく発見！読書は心の力こぶ～



平成 25 年 3 月
大井町教育委員会

目次

第1章 第二次計画策定にあたって	・・・2～3
1 子どもの読書活動の意義	・・・2
2 計画策定の背景	・・・2
3 計画の位置づけ	・・・2
4 基本方針	・・・3
5 計画の期間	・・・3
6 計画の対象となる子どもの年齢	・・・3
第2章 第一次計画の検証と子ども読書活動に関する調査について	・・・4～17
1 第一次計画の検証	・・・4～6
(1) 家庭における子ども読書活動の推進	・・・4
(2) 地域における子ども読書活動の推進	・・・4
(3) 園や学校等における読書活動の推進	・・・5
(4) 学校・関係機関・団体等が連携した読書活動の推進	・・・5
(5) 支援を必要とする子どもの読書活動の推進	・・・6
2 大井町の子ども読書活動に関する調査結果	・・・6～17
第3章 子どもの読書活動推進のための方策	・・・18～24
1 取組の重点	・・・18
(1) 学校図書館の活性化	・・・18
(2) うちどく（家読）の推進	・・・18
(3) ボランティアの支援と育成	・・・18
2 具体的な方策	・・・19
(1) 家庭への取組	・・・19
(2) 学校等における取組	・・・19
ア 保育園・幼稚園	
イ 小学校・中学校	
(3) 地域における取組	・・・20
ア 町図書館	
イ その他（図書館以外）	
(4) 関係機関・団体等の連携・協力	・・・22
具体的な方策取組一覧	・・・23～24

第1章 第二次計画策定にあたって

1 子どもの読書活動の意義

読書は、人生をより深く豊かにするもので、特に子どもの読書活動は子どもが自ら感じ、考え、判断し、行動する力、すなわち子どもの「生きる力」を育むために、大きな役割を果たすものです。

子どもが一冊の本を読むことを通じて能動的に考え想像することは、自らの力で自分自身を育てていくことにつながっていきます。例えば実体験が少なく、情緒も想像力も発達途上の子どもにとって、物語を読むことは登場人物と心を重ね合わせて喜びや悲しみを感じたり、勇気や希望を見出したりすることができる体験の場であると同時に、それらの体験から得たものが、心の成長の大きな糧となっていくのです。

また、読書によって多くの言葉を知ることが、豊かな表現力を身につけ、人とのコミュニケーションを円滑にすることにもつながります。

読書は、豊かな心（感性）や知的好奇心（知性）を育てていく一助になるのです。

2 計画策定の背景

子どもの成長において読書は、他の情報媒体には代えがたい価値があることから、国や県では子どもの読書活動を推進するための様々な取組を行っています。

また、新学習指導要領（平成20年3月改訂）では、各教科等の指導において児童・生徒の思考力、判断力及び表現力を育むために言語活動を充実させることとしており、言語に関する能力を育むにあたっては、読書活動の充実が不可欠であるとしています。

本町では平成20年3月に策定した「大井町子ども読書活動推進計画」（以下「第一次計画」という。）により、これまで家庭・学校・地域の様々な場面で団体や関係者と連携を図りながら、子どもの読書活動の推進に取り組んできました。第一次計画期間の終了にあたり、この5年間の取組を検証し、「第二次大井町子ども読書活動推進計画」（以下「第二次計画」という。）を策定することとしました。

3 計画の位置づけ

本計画は、「子どもの読書活動の推進に関する法律」（平成13年12月）第9条第2項の規定に基づくものであり、国の「子どもの読書活動の推進に関する基本的な計画（第二次計画）」（平成20年3月）及び「かながわ読書のススメ～第二次神奈川県子ども読書活動推進計画～」（平成21年7月）を基本として策定するもので、今後の大井町における子どもの読書活動を総合的に推進するための方向性と施策を示すものです。

4 基本方針

本計画は、第一次計画の基本的な考え方を引き継ぎ、次の2つを基本方針として子どもの読書活動の推進をめざします。

(1) 子どもが読書に親しむための環境づくり

様々な機会をとおして子どもと本をつなぎ、生活の中に読書が根付くよう、子どもを取り巻く読書環境を整備します。

(2) 子どもの読書活動に関する理解と関心の啓発

保護者・教職員・保育士等、子どもに身近な大人をはじめ、町民の間に広く子どもの読書活動についての関心と理解を深めるために、あらゆる機会をとらえ、読書活動の意義や重要性について普及・啓発を図ります。

5 計画の期間

平成25年度から平成32年度までの8年間とします。

6 計画の対象となる子どもの年齢

0歳からおおむね18歳までとします。

第二次計画キャッチフレーズ

～わくわく発見！読書は心の力こぶ～

**読書を通じて広がる、好奇心や新しい発見のわくわく感、
読書を通じて積み重なっていく豊かな感性や知識を
生きる力に蓄えて子ども達が成長していくことを目指します。**

第2章 第一次計画の検証と子ども読書活動に関する調査について

この5年間の取組の成果と課題を検証するとともに、子どもの読書活動に関するアンケート調査から、今後の町における子どもの読書活動推進の方向性を明らかにします。

1 第一次計画の検証

(1) 家庭における子ども読書活動の推進

① 子どもと本の出会い

町図書館における乳幼児に向けたおはなし会の実施や、子育て健康課におけるわらべ歌や絵本の紹介を行うことで、幼児に向けて出会いの場を提供することができました。しかし、町図書館における子どもの利用の減少や、実施しているおはなし会の参加者が減少していることなどから、子どもが図書館や読書に対して、成長の段階において継続して興味を持つことが難しくなっていると考えられます。

子どもに対して、どの年齢であっても、様々な形で本との出会いを提供する場を広げることが必要です。

② 保護者に対する読書のすすめ

乳幼児の健診では広く周知を行ってきましたが、家庭教育学級等での取組は、他の事業の関係から取り上げられることが少なくなっていました。

今後は講座という形にこだわらず、子どもの読書活動の意義や重要性がさらに理解され、家庭での読書習慣が確立されるような丁寧な取組をしていく必要があります。

(2) 地域における子ども読書活動の推進

① 町の図書館の取組

町図書館では講座の開催や、ホームページの開設、図書館システムのバージョンアップを行うなど、読書活動の環境を整え、サービスの向上に努めました。しかし青少年（ヤングアダルト）に対する読書環境の整備については進まず、魅力ある棚づくりなどが行えないままになっています。

今後は青少年へのサービスの向上や周知は、継続した子どもの読書活動を進めるためにも取り組むべき課題の一つです。

② 公民館（現 生涯学習センター）やその他の施設における読書活動関連事業の推進

関連事業については、講座等の実施や各施設における図書コーナーの充実など、様々な内容で行いました。今後はそれらの取組をより充実させるよう改善すること

が必要です。

(3) 園や学校等における子ども読書活動の推進

① 保育園・幼稚園における読書活動の推進

保育園や幼稚園での取組については、日々の保育の中で充分に取り上げられ、子どもは楽しんでおはなしを聞くことができます。また、地域や園独自のボランティアの協力も得ながら様々な読書活動を行っています。

園では、それらの様子を家庭へ周知して、子どもの読書環境の様子を保護者へ向けて発信していきましたが、今後は更に読み聞かせへの理解と深め、家庭での読み聞かせに広がるよう保護者に向けて発信していくことも必要と思われれます。

② 学校における読書活動の推進

小学校や中学校において、読書指導の年間計画の実施や朝読書の実施など子どもに向けた読書への取組は行われており、子どもは必ず本と向き合う時間を持つことができます。また、学校図書室における図書資料の基準達成については足りない部分もありますが、図書室の改善に取り組み始めた学校もあり、子どもにとってより良い読書環境を整えることが始まっています。

一方で学校から家庭への読書に対する理解や関心を高めるような取組は、便りや呼びかけなどの周知に留まってしまう状態でしたので、町図書館と連携して子どもの読書活動の意義や重要性を周知し、家庭での読書習慣が確立されるような取組をしていくことも必要です。

また、PTAやボランティアと協力し、子どもにとって一番身近な図書館である学校図書室を更に充実させることも、子どもと本をつなぐために必要なことと思われれます。

(4) 学校・関係機関・団体等が連携した読書活動の推進

① 学校と公立図書館との連携

研究会の実施により、読書活動年間指導計画の作成をして計画的に学校での読書活動を行うとともに、町図書館からの団体貸出の活用や出前講座の実施などを通して、様々な形で図書館や読書に関することを子どもに周知することができました。

今後は読書活動において学校が何を必要とするかを認識する場を持ち、更に協同して進めていくことも必要です。

② 社会教育関係団体との連携

社会教育委員については県の事業に参加するなどして研修を深め、第二次計画の策定について子どもの読書環境の面から考察し、提言を行っています。

③ ボランティア団体との連携

主に園や学校、町図書館で実施するおはなし会において、ボランティア団体の協力を得ながら実施することができました。また、今後も様々な場所において様々なボランティアとの協力は欠かせないことから、ボランティアの活動支援と育成を図っていかなくてはなりません。

(5) 支援を必要とする子どもの読書活動の推進

① 障がいのある子どもの読書活動の推進

市販されている点字資料の購入を行って資料の充実に努めましたが、今後は直接障がいのある子どもに向けての支援としてどんなことができるのかを検討していくことも必要です。

② 外国籍の子どもの読書活動の推進

母語による本の整備をすすめるため、英語の絵本を購入して資料の充実に努めました。今後はこれらの資料が更に活用されるような取組が必要です。

2 大井町の子ども読書活動に関する調査結果

大井町の子ども読書活動に関する調査結果（児童・生徒用）

実施期日：平成24年10月末

対象者：大井町立小学校5年児童 大井町立中学校2年生徒

回答数：小学生回答数188人 中学生回答数180人 総数368人

実施主体：大井町社会教育委員

※端数四捨五入のため100%にならない場合あり

I あなたの読書に対する関心について聞きます。

問1 本を読むのは好きですか？（1つ選択）

No.	項目	小	中
1	好き	49.5%	55.6%
2	どちらかというとき好き	39.4%	31.7%
3	どちらかというとき嫌い	10.1%	10.6%
4	嫌い	1.1%	1.7%
5	無回答	0.0%	0.6%

「好き」「どちらかというとき好き」のいずれかを回答した小学生は合わせて88.9%、中学生は87.3%となり、読書に対する関心が高いことがうかがえる。中学生においては、「好き」と回答した生徒が半数以上おり、小学生を上回った。

問2 本を読むのはどうしてですか？（複数選択可）

No.	項目	小	中
1	おもしろいから・たのしいから	82.4%	85.6%
2	ためになるから・勉強になるから	43.1%	40.6%
3	友だちが読むから	0.5%	8.3%
4	先生や家の人を読んだ方がいいというから	9.0%	13.9%
5	何かを調べたいから	28.7%	14.4%
6	本を読むと先生や家の人にほめられるから	2.7%	2.2%
7	知らなかったことがわかったり新しい発見があったりするから	43.1%	41.7%
8	その他（ ）	8.0%	9.4%

小・中学生ともに「おもしろいから・たのしいから」を選んだ児童・生徒が80%を超えて一番多かった。ついで、「ためになるから・勉強になるから」や「知らなかったことがわかったり新しい発見があったりするから」が40%を超えて多かった。小学生は、中学生と比較すると調べることを目的として読書をしている割合が高く、中学生は小学生と比較すると友だちや先生、家の方のすすめが影響している割合が高くなっている。その他としては、「読んでいると落ち着く」「読み終えたときの達成感を味わいたい」「集中力がつく」などの意見があった。

問3 1か月に何さつくらい本を読みますか？（1つ選択）

No.	項目	小	中
1	0さつ	4.3%	5.0%
2	1さつ	11.2%	24.4%
3	2さつ	21.3%	27.2%
4	3さつ	12.2%	9.4%
5	4さつ	8.5%	6.7%
6	5～9さつ	21.8%	13.3%
7	10～19さつ	11.2%	5.0%
8	20さつ以上	9.0%	8.9%
9	無回答	0.5%	0.0%

小学生は、上位から「5～9さつ（21.8%）」「2さつ（21.3%）」「3さつ（12.2%）」となっている。中学生は、同じく上位から「2さつ（27.2%）」「1さつ（24.4%）」「5～9さつ（13.3%）」となっている。10さつ以上読んでいる小学生は20%を超え、中学生も13.9%となっている。逆に「0さつ」と回答した割合は小学生・中学生ともに5%程度いた。

問4 問3で「0さつ」だった人に聞きます。本を読まなかったのはどうしてですか？（1つ選択）

回答数：小学生8人 中学生9人

No.	項目	小	中
1	本を読む時間がないから	12.5%	33.3%
2	読みたい本がないから	50.0%	33.3%
3	本を読むのがきらいだから	25.0%	22.2%
4	その他（ ）	12.5%	11.1%

「読みたい本がないから（7人）」「本を読む時間がないから（4人）」「本を読むのがきらいだから（4人）」（いずれも小学生・中学生を合わせた数）と大きな差がない結果となった。学校では朝読書を行っており、本を読む時間を設定されていることで、全く本を読まない児童・生徒は少数のみとなっている。その他としては、「他の勉強の方が楽しいから」という意見があった。

問5 どんな本をよく読みますか？（複数選択可）

No.	項目	小	中
1	小説や物語、童話	62.2%	90.6%
2	絵本	14.9%	4.4%
3	伝記や歴史	29.8%	16.1%
4	社会や生活の本	7.4%	5.6%
5	理科の本	11.7%	8.3%
6	スポーツや音楽、工作や料理などのしゅみの本	35.6%	33.3%
7	図かん	27.1%	3.9%
8	マンガ（学習にかかわるもの）	44.1%	28.3%
9	その他（ ）	13.3%	10.6%

小学生は、上位から「小説や物語、童話（62.2%）」「マンガ（学習に関わるもの）（44.1%）」「スポーツや音楽、工作などのしゅみの本（35.6%）」となっている。中学生は、同じく上位から「絵本や物語、童話（90.6%）」「スポーツや音楽、工作などのしゅみの本（33.3%）」「マンガ（学習に関わるもの）（28.3%）」となっている。小学生は、小説等以外はいずれも中学生を上回る割合となっており、幅広い種類の本に親しんでいる。逆に中学生は、小説等を読んでいる生徒が圧倒的に多くなっている。その他としては、「学習に関わらないマンガ」「ゲームの攻略本」「雑誌」などが挙げられた。

問6 読みたい本をどのようにえらびますか？（複数選択可）

No.	項目	小	中
1	自分でさがす	92.6%	92.8%
2	友だちにきく	17.0%	36.1%
3	家の人にきく	22.9%	16.7%
4	学校の先生にきく	0.0%	2.2%
5	町の図書館の人にきく	12.8%	4.4%
6	新聞や雑誌でしようかいされた本をえらぶ	7.4%	20.0%
7	インターネットでさがす	12.2%	15.6%
8	その他（ ）	5.9%	3.9%

小・中学生ともに「自分でさがす」が90%を超えており、最も多い。小学生は「家の人に聞く(22.9%)」が続き、中学生は「友だちに聞く(36.1%)」が続いている。選書の際に影響を与える人が小学生と中学生では若干異なることがわかる。小学生は「町の図書館の人にきく(12.8%)」が中学生(4.4%)に比べると多くなっており、中学生は「新聞や雑誌でしようかいされた本をえらぶ(20.0%)」が小学生(7.4%)に比べると多くなっている。「学校の先生にきく」と回答した小・中学生はともに最も低い割合となった。その他として、「家の人を選んだ本をもらう」という回答もあった。

問7 読みたい本をどのようにして手に入れますか？（複数選択可）

No.	項目	小	中
1	本屋で買う	93.1%	95.6%
2	インターネットで買う	6.9%	12.2%
3	学校の図書室でかりる	18.1%	7.2%
4	町の図書館（大井町図書館、そうわ会館図書室）でかりる	39.9%	22.8%
5	友だちからかりる	18.1%	45.0%
6	その他（ ）	3.2%	3.3%

小・中学生ともに「本屋で買う」が90%を超えており、最も多い。小学生は「町の図書館でかりる(39.9%)」が続き、中学生は「友だちからかりる(45.0%)」が続いている。読書推進の環境として、町図書館は小学生にとって活用しやすいものとなっており、中学生は身近な友だちが環境の一つとなっている。「学校の図書館でかりる」と回答した割合は、中学生(7.2%)よりも小学生(18.1%)が高くなっている。

II あなたの学校図書館に対する関心について聞きます

問8 学校の図書室を利用しますか？（1つ選択）

No.	項目	小	中
1	利用する	39.4%	8.3%
2	利用しない	60.6%	91.7%
3	無回答	0.0%	0.0%

「利用する」と回答した小学生は39.4%、中学生は8.3%にとどまった。学校図書室の開室の状況が影響していると考えられる。

問9 問8で「利用する」と答えた人に聞きます。1週間にどのくらい利用しますか？（1つ選択）

回答数：小学生 74人 中学生 15人

No.	項目	小	中
1	1回	74.3%	66.7%
2	2回	13.5%	13.3%
3	3回	5.4%	20.0%
4	4回	2.7%	0.0%
5	5回以上	4.1%	0.0%

「利用する」と回答した小学生は74人で、そのうちの55人（74.3%）が「1回」と回答している。同じく中学生は15人中10人（66.7%）が「1回」と回答している。小学生の中には「5回以上」と回答した児童が3人（4.1%）いた。

問10 問8で「利用する」と答えた人に聞きます。図書室をどんなことに利用しますか？（複数選択可）

回答数：小学生 74人 中学生 15人

No.	項目	小	中
1	本を読むため	71.6%	80.0%
2	本を借りるため	41.9%	53.3%
3	調べ学習をするため	40.5%	26.7%
4	その他（ ）	8.1%	0.0%

小・中学生ともに「本を読むため」と回答した児童・生徒が多く、小学生では「本を借りるため（31人・41.9%）」「調べ学習をするため（30人・40.5%）」と回答した児童も多いた。その他として、小学生では「委員会の仕事で」という回答もあった。

問11 問8で「利用しない」と答えた人に聞きます。利用しない理由は何ですか？（複数選択可）

回答数：小学生 114人 中学生 165人

No.	項目	小	中
1	本を読むのがすきでないから	7.9%	7.9%
2	読みたい本がないから	59.6%	55.2%
3	図書室があいていないから（あいている時間が少ないから）	1.8%	6.1%
4	図書室が遠いから	5.3%	37.6%
5	新しい本が少ないから	17.5%	21.2%
6	本のえらび方がわからないから	2.6%	6.1%
7	図書室に行く時間がないから	31.6%	45.5%
8	その他（ ）	21.1%	15.8%

「利用しない」と回答した小学生は114人、中学生は165人となっている。小学生は、上位から「読みたい本がないから（68人・59.6%）」「図書室に行く時間がないから（36人・31.6%）」「新しい本が少ないから（20人・17.5%）」となっている。中学生は、上位から「読みたい本がないから（91人・55.2%）」「図書室に行く時間がないから（75人・45.5%）」となっており、「図書室が遠いから（62人・37.6%）」が続いている。調査対象の中学2年生は、北側校舎3階で生活しており、南側校舎2階西側にある図書

室が遠いと感じていると思われる。各小学校についても、2階西側に配置されており、学年によっては教室から遠いと感じることも考えられる。その他として、「借りたり返したりが面倒くさい」「休み時間は外で遊びたい」「学級文庫におもしろい本が揃っているから」などの意見があった。

問 12 学校の図書室にしてほしいと思うことは何ですか？（複数選択可）

No.	項目	小	中
1	本の種類をふやしてほしい	54.8%	55.0%
2	読みたい本のリクエストにこたえてほしい	34.0%	34.4%
3	かし出し期間を長くしてほしい	25.0%	17.8%
4	本を読む席の数をふやしてほしい	8.0%	8.9%
5	おすすめの本を教えてください	14.9%	15.6%
6	本のさがし方や図書室の使い方を教えて欲しい	4.8%	5.6%
7	いつも図書室に本のことや調べものについて教えてくれる人がいてほしい	7.4%	5.0%
8	特にない	21.3%	36.1%
9	その他（ ）	6.9%	5.6%

小学生は、上位から「本の種類をふやしてほしい（54.8%）」「読みたい本のリクエストにこたえてほしい（34.0%）」「かし出し期間を長くしてほしい（25.0%）」となっている。中学生は、同じく上位から「本の種類をふやしてほしい（55.0%）」「特にない（36.0%）」「読みたい本のリクエストにこたえてほしい（34.4%）」となっている。小・中学生ともに同じ傾向にある。「特にない」については、現状で満足しているのか、要求はあっても難しいと感じているかの判断が難しい。その他として、「もっと明るい図書室にしてほしい」「理科や社会に関わる本を増やしてほしい」などの意見があった。

Ⅲ あなたの町の図書館に対する関心について聞きます

問 13 大井町に図書館（大井町図書館〈生涯学習センター内〉、そうわ会館図書室）があることを知っていますか（1つ選択）

No.	項目	小	中
1	知っている	96.8%	98.9%
2	知らない	2.7%	1.1%
3	無回答	0.5%	0.0%

「知っている」と回答した児童・生徒数は、小・中学生ともに95%を超えており、認知はされていることがわかる。

問 14 この1年間に、大井町の図書館（大井町図書館〈生涯学習センター内〉、そうわ会館図書室）へ行ったことがありますか？（1つ選択）

No.	項目	小	中
1	ある	83.5%	86.1%
2	ない	16.0%	13.9%
3	無回答	0.5%	0.0%

「ある」と回答した小学生は83.5%、中学生は86.1%になっており、高い来館率となっている。

問 15 問 14 で「ある」と答えた人に聞きます。大井町の図書館〈大井町図書館〉、そうわ会館図書室)にはどのくらい行きますか？（1つ選択）

回答数：小学生 157 人 中学生 155 人

No.	項目	小	中
1	ほとんど毎日	5.1%	1.3%
2	週に3回ぐらい	3.2%	2.6%
3	週に1回ぐらい	8.9%	5.2%
4	2週間に1回ぐらい	10.2%	7.7%
5	1か月に1回ぐらい	17.8%	26.5%
6	年に5～6回ぐらい	28.7%	23.9%
7	年に1～3回ぐらい	25.5%	32.3%
8	無回答	0.6%	0.0%

「この1年間に、大井町の図書館へ行ったことがある」と回答した小学生は157人、中学生は155人になっている。小・中学生ともに傾向は同様で、「年に1～3回」「年に5～6回」が約半数を占めている。年に数回の場合は、夏季休業中の自由研究対策等が考えられる。週に1回以上来館する小学生の割合は17.2%となっており、積極的な活用をしている児童も少なくない。

問 16 問 14 で「ある」と答えた人に聞きます。大井町の図書館（大井町図書館、そうわ会館図書室）に行くのは、何のためですか？（複数選択可）

回答数：小学生 157 人 中学生 155 人

No.	項目	小	中
1	本を読むため	56.7%	52.3%
2	本をかりるため	52.2%	49.7%
3	調べものをするため	51.6%	50.3%
4	勉強するため	35.0%	53.5%
5	おはなし会などのイベントに参加するため	0.6%	1.9%
6	その他（ ）	11.5%	11.6%

小・中学生ともに、「本を読むため」「本をかりるため」「調べものをするため」と回答した数が多くなっている。中学生は、加えて「勉強するため」と回答した生徒が多く、学習室の機能として捉えている生徒もいることがわかる。その他としては、「親が迎えに来るまでの時間つぶし」「待ち合わせ」などを回答する中学生もいた。

問 17 問 14 で「ない」と答えた人に聞きます。大井町の図書館（大井町図書館、そうわ会館図書室）に行かなかった理由は何ですか？（複数選択可）

回答数：小学生 30 人 中学生 25 人

No.	項目	小	中
1	本にきょうみがないから	13.3%	16.0%
2	図書館が遠いから	40.0%	20.0%
3	本屋やインターネットで本を買うから	30.0%	36.0%
4	図書館に行く時間がないから	50.0%	52.0%
5	家や学校の図書室に読みたい本があるから	13.3%	20.0%
6	その他（ ）	6.7%	12.0%

小・中学校ともに、「図書館に行く時間がないから」と回答した児童・生徒が最も多い。児童・生徒の平日の下校時刻からすれば来館は非常に難しい状況である。休日の利用が考えられるが、習い事や部活で忙しい状況にあるとすると、それも難しい。「本やインターネットで本を買うから」「家が学校の図書室に読みたい本があるから」という回答も若干あったが、本を読む環境であるならばよいと考える。その他として、「借りたり返したりが面倒くさい」という意見があった。

問 18 大井町の図書館（大井町図書館、そうわ会館図書室）にこうしてほしいと思うことは何ですか？（複数選択可）

No.	項目	小	中
1	あいている日をふやしてほしい	13.8%	14.4%
2	あいている時間を長くしてほしい（現在は9：00～17：15）	23.9%	34.4%
3	本の種類をふやしてほしい	38.3%	49.4%
4	かし出し期間を長くしてほしい（現在は2週間、延長は1回〈2週間〉のみ可）	18.6%	19.4%
5	本を読む席をふやしてほしい	25.5%	31.7%
6	本のさがし方や図書館の使い方を教えてほしい	3.2%	2.2%
7	本をえらんだり調べ学習をしたりするときにそうだんにのってほしい	7.4%	2.8%
8	おすすめの本を教えてほしい	9.0%	15.0%
9	ビデオやDVDなどの種類をふやしてほしい	19.1%	26.1%
10	本のならび方をもっとわかりやすくしてほしい	16.0%	18.3%
11	その他（ ）	3.2%	5.6%
12	特にない	28.7%	25.0%

「本の種類をふやしてほしい」が小学生では38.3%、中学生では49.4%でいずれも最も多い。小学生では、「特にない（28.7%）」「本を読む席をふやしてほしい（25.5%）」「あいている時間を長くしてほしい（23.9%）」と続いている。中学生では、「あいている時間を長くしてほしい（34.4%）」「本を読む席をふやしてほしい（31.7%）」「ビデオやDVDなどの種類をふやしてほしい（26.1%）」となっている。開館時間については、先述したとおり平日の下校時刻を考えれば要望が高くなるのはやむを得ない。座席数については学習用として12席あり、その他には様々な形態のものが用意されている。学習室機能を期待している児童・生徒にとっては少なく感じるかもしれないが、夏季休業期間中は、可能な限り生涯学習センターの会議室を開放するようにしている。

IV これからの読書について聞きます

問 19 どうしたら多くの子どもたちが本を読むようになると思いますか？（複数選択可）

No.	項目	小	中
1	小さいころから読み聞かせなどをおして、本にしたしむ	58.5%	58.9%
2	小さいころから図書館や本屋などに行く	37.2%	34.4%
3	家族で読書にしたしむようにする	34.6%	45.6%
4	学校で読書の時間を決める	27.7%	42.2%
5	学校の図書室を利用しやすくする	30.3%	32.8%
6	学校でおはなし会などをひらく	35.6%	23.9%
7	図書委員会をおして本のしょうかいなどをする	30.9%	26.1%
8	町の図書館の利用時間や利用日をふやす	20.7%	21.1%
9	その他（ ）	8.5%	10.0%

子どもたち自身にも読書活動推進の方策について質問してみた。小学生は、上位から「小さいころから読み聞かせなどをおして、本にしたしむ（58.5%）」「小さいころから図書館や本屋などに行く（37.2%）」「学校でおはなし会などをひらく（35.6%）」となっているが、他の項目も20%以上の回答率となった。中学生は、「小さいころから読み聞かせなどをおして、本にしたしむ（58.9%）」「家族で読書にしたしむようにする（45.6%）」「学校で読書の時間を決める（42.2%）」となっており、小学生同様に他の項目も20%を超える回答率となった。学校の図書室や町の図書館の充実もさることながら、家庭における読書環境の充実の重要性を感じている児童・生徒が多いことがわかる。その他として、「学校の読書の時間を長くする」「いろいろな種類の本を揃える」という意見や「本を読む読まないは自由だから、無理やり読ませるのはよくない」という意見もあった。

大井町 子ども読書活動に関する調査（保護者用）

実施期日：平成 24 年 10 月末

対象者：大井町立小学校 5 年生保護者 大井町立中学校 2 年生保護者

回答数：小学生保護者回答数 177 人 中学生保護者回答数 156 人 総数 333 人

実施主体：大井町社会教育委員

※端数四捨五入のため 100%にならない場合あり

問 1 本を読むことが大切だと思いますか？（1つ選択）

No.	項目	割合
1	思う	89.8%
2	どちらかといえば思う	7.2%
3	どちらかといえば思わない	0.9%
4	思わない	0.9%
5	無回答	1.2%

「思う」「どちらかといえば思う」のいずれかを回答した保護者は合わせて 97.0%となり、読書の大切さ、読書活動推進のための素地を持っていることがうかがえる。小学校よりも中学校の保護者の方が「思う」と回答した割合が高かった。

問 2 お子さんがよく本を読むようになるために、これまでに行ってきたことはありますか？（複数選択可）

No.	項目	割合
1	家庭で読書の時間をつくった（読み聞かせも含む）	40.2%
2	テレビやゲーム、携帯電話などの時間を減らした	11.1%
3	大人が読書している姿を子どもに見せた	26.7%
4	本について家族で話す機会を持った	21.9%
5	手に取れるところに本を置いた	43.5%
6	図書館や書店に子どもと一緒にいった	75.7%
7	その他（ ）	5.4%
8	とくに何もしてこなかった	13.2%

小・中学校ともに「図書館や書店に子どもと一緒に行く（75.7%）」「手に取れるところに本を置いた（43.5%）」「家庭で読書の時間をつくった（読み聞かせも含む）（40.2%）」が上位の3つとなった。「テレビやゲーム、携帯電話などの時間を減らした」を選んだ保護者は少なく（11.1%）、何かを制限するという策を積極的にとっていないことがわかる。「とくに何もしてこなかった」は全体で 13.2%となっている。その他として、「興味を持ちそうな本をいくつか渡してみる」「同じ本を読む」「読んでいる姿を見せる」などの意見があった。

問3 子どもたちがよく本を読むようになるために、どのようなことをすればよいと思いますか？（複数選択可）

No.	項目	割合
1	家庭で読書の時間をつくる（読み聞かせも含む）	48.9%
2	テレビやゲーム、携帯電話などの時間を減らす	33.6%
3	大人が読書している姿を子どもに見せる	38.7%
4	本について家族で話す機会を持つ	36.0%
5	手に取れるところに本を置く	43.2%
6	図書館や書店に子どもと一緒にいく	70.9%
7	町図書館等の施設や内容の充実	33.3%
8	大人が本に関する情報を得て活用する 情報の内容（ ）	7.8%
9	その他（ ）	2.7%
10	本を読む、読まないは本人にまかせた方がよい	10.2%

上位から「図書館や書店に子どもと一緒にいく（70.9%）」「家庭で読書の時間をつくる（読み聞かせも含む（48.9%）」「手に取れるところに本を置く（43.2%）」となっている。本が身近にある環境をいかにしてつくるかが大切になってくる。その他として、「押し付けず、自然な形で環境づくり」という意見があった。

問4 大井町に図書館（大井町図書館〈生涯学習センター内〉、そうわ会館図書室）があることを知っていますか（1つ選択）

No.	項目	割合
1	知っている	98.2%
2	知らない	0.6%
3	無回答	1.2%

「知っている」と回答した保護者は98.2%に上り、非常に認知されていることがわかる。

問5 大井町図書館（生涯学習センター内）のホームページ（<http://www.oitown-lib.jp>）から、所蔵検索や図書の貸出予約ができることを知っていますか？（1つ選択）

No.	項目	割合
1	知っている	54.4%
2	知らない	44.1%
3	無回答	1.5%

「知っている」と回答した保護者は54.4%となっている。実際に所蔵検索や貸出予約をしているかどうかは定かではない。

問6 大井町の図書館（大井町図書館〈生涯学習センター内〉、そうわ会館図書室）をどのくらい利用されますか？（1つ選択）

No.	項目	割合
1	週に3回以上	0.3%
2	週に1回くらい	3.0%
3	月に1～2回	24.0%
4	年に数回	47.4%
5	ほとんど利用していない	23.7%
6	無回答	1.5%

「年に数回」と回答した保護者がほぼ半数となっている。継続的な利用ではなく、必要に応じて来館しているといった状況であると考えられる。4人に1人が「ほとんど利用していない」と回答していることから、利用を促す具体策を考える必要がある。なお、「ほとんど利用していない」については、小学校保護者が18.1%、中学校保護者が30.1%となっており、子どもとかかわる時間の長さとの関連があると思われる。

問7 大井町の図書館（大井町図書館、そうわ会館図書室）にこうしてほしいと思うことは何ですか？（複数選択可）

No.	項目	割合
1	開館日を増やしてほしい（現在の休館日は毎月第2・第4月曜日、蔵書点検期間〈6月〉、年末年始）	2.1%
2	開館時間を長くしてほしい（現在は9:00～17:15）	29.7%
3	本の種類を増やしてほしい	47.7%
4	貸出期間を長くしてほしい（現在は2週間、延長は1回〈2週間〉のみ可）	8.4%
5	おはなし会や講座など行事の充実	4.8%
6	レファレンスサービス（必要な情報や資料を図書館が検索、回答する）の充実	6.6%
7	ホームページの充実	6.6%
8	ビデオやDVDなど視聴覚資料の充実	26.1%
9	新着図書の紹介や図書に関する情報等、「図書館だより」の充実（現在は「広報おおい」毎月1日号に掲載）	8.7%
10	その他（ ）	4.5%
11	特になし	23.1%

小・中学校ともに「本の種類を増やしてほしい（47.7%）」「開館時間を長くしてほしい（29.7%）」「ビデオやDVDなど視聴覚資料の充実（26.1%）」となっている。これは、児童・生徒の調査と同様の傾向である。この3つに、「特になし（23.1%）」を加えたものが20%以上の回答率となっている。レファレンスサービスやホームページの充実、開館日を増やすことについては、要望があまり高くなかった。その他として、「椅子や机を増やしてほしい」「勉強するスペースを拡げてほしい」という意見があった。

第3章 子どもの読書活動推進のための方策

1 取組の重点

第一次計画の検証結果やアンケートを踏まえ、第二次計画では次を重点施策として位置づけ、取り組めます。

(1) 学校図書館の活性化

学校図書館には、子どもの心を育む自由な読書活動を支援する「読書センター」としての機能と、自発的・主体的な学習活動を支援する「学習・情報センター」としての機能があります。学校図書館がこれらの機能を果たし、子どもが利用しやすく、魅力的な図書館とするための整備を進めます。またそのために、学校・ボランティア・町図書館との連携を強化し、支援していきます。

(2) うちどく（家読）の推進

「家族みんなで本を読み、読んだ本について語り合う」うちどく（家読）を進めていきます。うちどく（家読）をすすめていくことで、家庭での読書の習慣や環境づくりとあわせて読書を通じたコミュニケーションを図ることができ、家族の絆を深めることにもつながっていきます。

(3) ボランティアの支援と育成

広く子どもに向けて読書活動を進めるにあたり、ボランティアの存在はなくてはなりません。現在読み聞かせや、学校図書室の整備などで活動している学校支援ボランティアや、地域ボランティアの活動を支援するとともに、新たな仲間作りを進めます。

2 具体的な方策

(1) 家庭への取組

子どもと本の出会いは、家庭から始まります。子どもの成長における読書活動の大切さを保護者に理解してもらい、家庭で読書を楽しむ習慣をつくることのできるよう、関係機関と協力して家庭への情報提供の充実や事業を行います。

- ① うちどく（家読）の取組にあわせ、子どもの年代（学年）に合わせた本や家族で読みたい本の紹介をします。（中学校・小学校・幼稚園・保育園・町図書館）
- ② 乳幼児にかかわる健診や教室等で親子で読書を楽しむことができるよう、子どもの読書案内や絵本の紹介をするとともに、親子の触れ合いに有効なわらべ歌をあわせて紹介していきます。（子育て健康課・町図書館）
- ③ リサイクル図書の活用などにより、保健福祉センターやふれあい館における図書コーナーの充実を図ります。（子育て健康課・町図書館）
- ④ 子どもの読書に関する講座やすこやか学級を開催し、子どもの読書の重要性について啓発を行います。（生涯学習課・町図書館）
- ⑤ 親子で参加できるおはなし会などの事業を行います。（町図書館）

(2) 学校等における取組

ア 保育園・幼稚園

この時期の子どもは、初めての集団生活の中で保育士や幼稚園教諭から読んでもらう絵本・おはなし・紙芝居の世界を体感し、たのしみを共有しながら豊かな言葉を育み、成長していきます。日常の保育や教育の中で積極的に読書活動を取り入れ、子どもの本への興味や関心を育てていきます。

- ① 保育士や幼稚園教諭による読み聞かせを日常的に行います。
- ② 町図書館やボランティアによるおはなし会を行います。
- ③ 家庭での読み聞かせを保護者へ働きかけます。
- ④ 本との触れ合いを楽しめるよう図書コーナーの環境を整え、貸出等を行います。

イ 小学校・中学校

教職員の共通理解のもと、司書教諭や図書担当教諭を中心に学校全体で読書活動を推進します。また町図書館やボランティアとの連携を深め、学校と地域との協力により子どもの読書意欲を高めるような読書指導を進めます。

- ① 朝読書や一斉読書等により、読書時間の確保に努めます。
- ② 各教科等で学校図書館を活用した学習活動を進めます。
- ③ 学校図書館年間指導計画に基づいた読書指導と図書館利用指導の充実を図ります。
- ④ 学校図書館の活性化を図ります。
 - a 児童・生徒が読みたい本や、学習活動に必要な本、教職員の要望する本等を収集し、蔵書を充実させます。
 - b 本の修理や利用されない古い本の廃棄を進め、蔵書を整備します。
 - c 館内のレイアウトや、本の配架、掲示物等を工夫し、利用しやすい図書館にします。
 - d 町図書館やボランティアと連携して、環境の整備や運営の充実を図るため、学校貸出文庫の実施や団体貸出、蔵書の整備を行います。
- ⑤ 町図書館やボランティアと連携しておはなし会等を実施し、読書活動の充実を図ります。
- ⑥ 図書委員や図書系の活動により、児童・生徒の主体的な取組を促し、委員会活動の運営の充実を図ります。
- ⑦ 学校での読書活動の様子を家庭に向けて発信するように努めます。

(3) 地域における取組

ア 町図書館

町図書館は、好きな本を自由に手に取り、読書に親しむことのできる施設であるとともに、学習の場やくつろぎの場となる、子どもにとって身近な公共施設でもあります。子どもが望む資料を提供して、読書のたのしみを知ったり、深めたりする場であるとともに、保護者にとっても子どもの読書活動について情報を得られる施設でもあります。

子ども自身の読書活動はもとより、保護者や地域に対する読書活動を深めるため、現在行っている事業の充実を図るとともに、関係機関や施設との連携を強化して支援や協力体制の充実を行い、子どもの読書環境の充実に努めます。

- ① 児童・青少年用図書の充実を図ります。
- ② 児童・青少年に対するサービスの充実を図ります。
 - a 子どもの年代に合わせた事業を行います。
 - b ティーンズサービス*を充実させるために、ティーンズに向けた図書の紹介や展示を行います。
 - c 年代別ブックリストを作成し、配布します。

*ティーンズサービス…小学校高学年から高校生くらいの青少年に向けたサービス
- ③ 保育園・幼稚園・学校での読書活動を支援します。
 - a 図書館の司書による各学校図書館の支援を行います。
 - b 調べ学習への対応を充実させるため、様々なテーマによる学習パックを用意し、各学校の要望に沿うような団体貸出を行います。
 - c 各施設へのおはなし会や出前講座の実施等、出張サービスを実施します。
 - d 学校貸出文庫や団体貸出を行い、保育園や幼稚園の図書コーナー、学校図書館の蔵書支援を行います。
 - e 施設見学や団体利用の周知を行い、目的に合った図書館利用を受け入れます。
 - f 司書教諭・図書担当、ボランティアと連携して学校図書館の整備を進めます。
- ④ ボランティアの支援と育成を図ります。
 - a 子ども読書活動に関する研修や講座への参加を推進します。
 - b ボランティア養成のための入門講座を開催します。
- ⑤ 支援を必要とする子どもの読書活動を進めます。
 - a 学校と連携を図りながら、障がいを持つ児童や生徒に対する読書支援の内容把握に努めます。
 - b 異文化理解を深めるため、図書館において外国語の絵本を所蔵していることを周知するとともに、活用に努めます。
- ⑥ 地域及び家庭への啓発や情報発信を積極的に進めます。
 - a 町広報・ホームページ等を活用し、子どもの読書活動への周知を図ります。
 - b 図書館システムのバージョンアップを行い、資料検索や情報の提供など利用者向けサービスの向上に努めます。
 - c 「子ども読書の日」や「読書週間」また夏休み等を利用し、子どもの読書活動に関心を高めるような取組を行います。

イ その他（町図書館以外）

子どもに係わる様々な施設や団体と協力し、あらゆる機会をとおして子どもと本をつなぐ取組を進めます。

- ① ふれあい館（子育て支援センター）の利用者に子どもの読書活動の啓発を行います。（子育て健康課・町図書館）
- ② 学童保育所へ団体貸出などの読書支援を行います。（子育て健康課・町図書館）
- ③ 出前講座を開催し、図書館利用や読書活動の推進を図ります。（生涯学習課）

（4）関係機関・団体等の連携・協力

本計画の推進にあたり、教育委員会を中心に関係部署が連携し、また家庭、保育園、幼稚園、学校、町図書館、ボランティア等との協働により取組を進めます。

- ① 情報交換会を実施し、子どもの読書活動の進捗状況を確認しながら、必要な見直しと改善を行います。（教育総務課・図書館）
- ② 県・近隣市町と連携して情報の収集や提供を行います。（教育総務課・町図書館）
- ③ 社会教育関係団体の会議や研修会等での啓発活動に努めます。（生涯学習課）

具体的な方策 取組一覧

<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">家庭への取組</p>	<p>① うちどく（家読）の取組にあわせた子どもの年代（学年）に合わせた本や家族で読みたい本の紹介をする。</p> <p>② 乳幼児にかかわる健診や教室等における、子どもの読書案内や絵本の紹介、わらべ歌の紹介をする。</p> <p>③ リサイクル図書の活用などにより、保健センターやふれあい館における図書コーナーの充実を図る。</p> <p>④ 子どもの読書に関する講座やすこやか学級を開催し、子どもの読書の重要性について啓発する。</p> <p>⑤ 親子で参加できるおはなし会などの事業を開催する。</p>	<p>中学校・小学校・幼稚園・保育園・町図書館</p> <p>子育て健康課・町図書館</p> <p>子育て健康課・町図書館</p> <p>生涯学習課・町図書館</p> <p>町図書館</p>
<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">保育園・幼稚園</p>	<p>① 保育士や幼稚園教諭による読み聞かせを日常的に行う。</p> <p>② 町図書館やボランティアによるおはなし会を実施する。</p> <p>③ 家庭での読み聞かせを保護者へ働きかける。</p> <p>④ 本との触れ合いを楽しめるよう図書コーナーの環境を整え、貸出等を行う。</p>	<p>幼稚園・保育園</p> <p>幼稚園・保育園・町図書館</p> <p>幼稚園・保育園</p> <p>幼稚園・保育園</p>
<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">学校等における取組</p> <p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">小学校・中学校</p>	<p>① 朝読書や一斉読書等により、読書時間の確保に努める。</p> <p>② 各教科等で学校図書館を活用した学習活動を進める。</p> <p>③ 学校図書館年間指導計画に基づいた読書指導と図書館利用指導の充実を図る。</p> <p>④ 学校図書館の活性化を図る。</p> <p>a 児童・生徒が読みたい本や、学習活動に必要な本、教職員の要望する本等を収集し、蔵書を充実させる。</p> <p>b 本の修理や利用されない古い本の廃棄を進め、蔵書を整備する。</p> <p>c 館内のレイアウトや、本の配架、掲示物等を工夫し、利用しやすい図書館にする。</p> <p>d 町図書館やボランティアと連携して、環境の整備や運営の充実を図り、学校貸出文庫の実施や団体貸出、蔵書の整備を行う。</p> <p>⑤ 町図書館やボランティアと連携しておはなし会等を実施し、読書活動の充実を図る。</p> <p>⑥ 図書委員や図書系の活動により、児童・生徒の主体的な取組を促し、委員会活動の運営の充実を図る。</p> <p>⑦ 学校での読書活動の様子を家庭へ向けて発信するように努める。</p>	<p>小学校・中学校 教育総務課・町図書館</p>

地域における取組	町図書館	<p>① 児童・青少年用図書の充実を図る。</p> <p>② 児童・青少年に対するサービスの充実を図る。</p> <p>a 子どもの年代に合わせた事業を実施する。</p> <p>b ティーンズサービス*を充実させるために、ティーンズに向けた図書の紹介や展示を行う。</p> <p>c 年代別ブックリストを作成し、配布する。</p> <p>*ティーンズサービス…小学校高学年から高校生くらいの青少年に向けたサービス</p> <p>③ 保育園・幼稚園・学校での読書活動の支援</p> <p>a 図書館の司書による各学校図書館の支援を行う。</p> <p>b 調べ学習への対応を充実させるため、様々なテーマによる学習パックを用意し、各学校の要望に沿うような団体貸出を行う。</p> <p>c 各施設へのおはなし会や出前講座の実施等、出張サービスを実施する。</p> <p>d 学校貸出文庫や団体貸出を行い、保育園や幼稚園の図書コーナー、学校図書館の蔵書支援を行う。</p> <p>e 施設見学や団体利用の周知を行い、目的に合った図書館利用を受け入れる。</p> <p>f 司書教諭・図書担当、ボランティアと連携して学校図書館の整備を進める。</p> <p>④ ボランティアの支援と育成を図る。</p> <p>a 子ども読書活動に関する研修や講座への参加を推進する。</p> <p>b ボランティア養成のための入門講座の開催</p> <p>⑤ 支援を必要とする子どもの読書活動を進める。</p> <p>a 学校と連携を図りながら、障がいを持つ児童や生徒に対する読書支援の内容把握に努める。</p> <p>b 異文化理解を深めるため、図書館において外国語の絵本を所蔵していることを周知するとともに、活用に努める。</p> <p>⑥ 地域及び家庭への啓発や情報発信を進める。</p> <p>a 町広報・ホームページ等を活用し、子どもの読書活動への周知を図る。</p> <p>b 図書館システムのバージョンアップを行い、資料検索や情報の提供など利用者向けサービスの向上に努める。</p> <p>c 「子ども読書の日」や「読書週間」また夏休み等を利用し、子どもの読書活動に関心を高めるような取組を行う。</p>	町図書館
	その他 (図書館以外)	<p>① ふれあい館（子育て支援センター）の利用者に子どもの読書活動の啓発を行う。</p> <p>② 学童保育所へ団体貸出などの読書支援を行う。</p> <p>③ 出前講座を開催し、図書館利用や読書活動の推進を図る。</p>	<p>子育て健康課・町図書館</p> <p>子育て健康課・町図書館</p> <p>生涯学習課</p>
関係機関・団体等の連携・協力		<p>① 情報交換会を実施し、子どもの読書活動の進捗状況を確認しながら、必要な見直しと改善を行う。</p> <p>② 県・近隣市町と連携して情報の収集や提供を行う。</p> <p>③ 社会教育関係団体の会議や研修会等での啓発活動に努める。</p>	<p>教育総務課・町図書館</p> <p>教育総務課・町図書館</p> <p>生涯学習課</p>

第二次大井町子ども読書活動推進計画

平成25年 3月

【発行】

大井町教育委員会

〒258-8501 神奈川県足柄上郡大井町金子 1995

電話 0465-83-5409

表紙イラスト 曾根利香さん（湘光中学校3年）